

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

"Romeo and Juliet" by Josef Strauss : A Potpourri based on Gounod's Opera

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若宮, 由美 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/272 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



ヨーゼフ・シュトラウスの〈ロメオとジュリエット〉

— グノーのオペラに基づくポプリ —

“Romeo and Juliet” by Josef Strauss

A Potpourri based on Gounod's Opera

若宮由美

WAKAMIYA, Yumi

The Austrian National Library possesses a piano score of potpourri based on Ch. Gounod's opera “*Romeo and Juliet*” that was arranged by Josef Strauss. The score was published as No.107 of the series named ‘*Anthologie Musicale*’ by the publisher Spina. The background of this potpourri is not known. The French Opera “*Romeo and Juliet*” by Gounod was premiered in Paris on April 27, 1867 during the Expo in Paris, and was performed in German in Vienna on February 5, 1868. The author found the advertisement of the Strauss's Concert in Volksgarten dated July 24, 1867 in which the “Großes Potpourri aus der Oper *Romeo und Julie*” by Josef Strauss was announced as a new work. It became clear that this potpourri was actually performed by the Strauss Orchestra.

1 序：研究の動機

2014年3月、筆者はオーストリア国立図書館でヨーゼフ・シュトラウス Josef Strauss (1827-70)によるポプリ2曲を発見した。アーベルト Johann Joseph Abert (1832-1915)の独語オペラ《アストルガ Astorga》¹⁾、ならびにグノー Charles Gounod (1818-93)の仏語オペラ《ロメオとジュリエット Roméo et Juliette》²⁾に基づくポプリである。ともにウィーンの出版社C.A.シュピーナ Spina社が出版した、‘*Anthologie Musicale (Musikalische Blumenlese). Fantasies en Forme de Potpourris sur les Motifs les plus favoris*

d’Opéras’ (以下、『ポプリ選集』と表記)と題するシリーズに含まれていた。

ところで、「ポプリ」とは何であろうか。19世紀には、オペラを原曲とするポプリがしばしば作られた。ドイツ語の音楽事典MGGによれば、オペラのポプリは「Fantasie, Mélange, Divertissement, Bouquet, Medley等の名称でも出版された。音楽的な構成はいずれも同じである。つまり、[オペラの中の]最も重要かつ効果的なメロディーだけを使って、原曲であるオペラの劇構成上の配置を考慮せずにつなぎあわせた曲であり、新しく作曲した移行部を含むことがある」(BALLSTAEDT 1997: 1760)。そして、「20世紀の大衆音楽では

キーワード：ロメオとジュリエット、ポプリ、シュトラウス、グノー、パリ万博
Key words : Romeo and Juliet, potpourri, Strauss, Gounod, Expo in Paris

メドレーと記されるもの」(BALLSTAEDT 1997: 1761) と定義されている。

話をヨーゼフ・シュトラウスに戻そう。彼の作品については、現在までにいくつかの作品目録が刊行されている。それらの作品目録に、上記のポプリーが記載されているかを調べた。(1) ヴァインマンによる作品目録 (WEINMANN 1967) : 「ポプリー」という曲種の楽曲がひとつも含まれない。(2) シェーンヘルによる作品目録 (SCHÖNHERR 1982) : この目録にも「ポプリー」は1曲も含まれない。(3) ケンプによる作品目録 (KEMP 2001) : 「作品番号なしに出版された曲」として2曲、「消失作品」として7曲が記載されているが、研究対象の2曲を含まない³⁾。(4) マイラーによる作品目録 (MAILER 2002) : 「未出版の作品」として5曲のポプリーを含むが、対象2曲は含まない⁴⁾。(5) リンハルトによる作品目録 (LINHARDT 2006) : 「作品番号のない現存作品」として2曲、「消失作品」として8曲が記載されているが、対象2曲を含まない⁵⁾。いずれの作品目録にも、シュピーナー社刊のポプリー2曲は記載されていないことが判明した。すなわち、ヨーゼフ・シュトラウスの作品としていまだに認知されていない作品だということである。

ヨーゼフ・シュトラウスは42年の生涯で500曲以上の編曲を手がけたと言われている。しかし、シュトラウス楽団を解散した弟エドゥアルト Eduard Strauss (1836-1916) が、1907年10月に楽団所有の楽譜のすべてを焼却したため、シュトラウス家ならびにシュトラウス楽団の活動を、楽譜の面から検証することはきわめて難しい状況にある⁶⁾。シュトラウス家の3兄弟が自作として出版した作品だけが世に残り、一次資料の欠落のせいで、楽

団が演奏した他の作曲家の作品や編曲は充分に把握できないからである。

本研究では、このうちの〈ロメオとジュリエット〉を対象を絞り、いままでに明らかにされていない、同ポプリー誕生の背景について考察していく。楽譜に記載された題名は、“*Potpourri über Motive der Oper: Romeo und Julie von C. Gounod*”。

2 グノーのオペラ《ロメオとジュリエット》

ヨーゼフ・シュトラウスによるポプリー〈ロメオとジュリエット〉は、グノーのオペラ《ロメオとジュリエット》のモチーフを使用している。そこで最初に、ポプリーの原曲であるグノーのオペラ《ロメオとジュリエット》の制作とパリ初演、ならびにウィーン初演について概観する。

2.1 オペラ制作とパリ初演

グノーの《ロメオとジュリエット》は、イギリスの劇作家シェークスピア William Shakespeare (1564-1616) の戯曲“*Romeo and Juliet*” (1596) に基づく5幕構成のグランド・オペラである。台本はバルビエ Jules Barbier (1825-1901) とカレ Michel Carré (1821-72) による仏語台本を使用。1867年4月27日にパリのリリック座 Théâtre Lyrique で、ロメオ役にミショー Pierre-Jules Michot (1832-96)、ジュリエット役にカロリーネ・カルヴァロ Caroline Carvalho (1827-95) を配して初演された。グノーのオペラとして、《ファウスト Faust》(1859) に次ぐ成功を収めた⁷⁾。新聞各紙はこぞって賞賛を浴びせ、1867年5月4日付の *Le Ménestrel* 紙のモレノ Henri Moréno は、次のように書いている。「《ファウスト》と同等の価値を持つ作品が現われた。ベッ

リーニとヴァッカイによるロメオ作品はもはや陰に消え去るであろう」⁸⁾。

《ファウスト》で世界的名声を確立したグノーは、リリック座の座長レオン・カルヴァロ Léon Carvalho (1825-97) の依頼で、1860-62年に3作のオペラ⁹⁾を作曲するが失敗。1864年初演の《ミレイユ *Mireille*》で再度の成功を収める。その直後に《ロメオとジュリエット》の制作に取りかかるが、完成までに2年を要した。《ロメオとジュリエット》は、パリ万国博覧会の開催中に初演され、その年にリリック座で100回以上の上演がなされた。万博に訪れていた多くの外国人にオペラは周知され、瞬く間に外国へ流布し、6月11日には早くもロンドン(伊語)、11月15日にドレスデン(独語)、11月18日にブリュッセル(仏語)、12月14日にミラノ(伊語)で上演された¹⁰⁾。同オペラは、グノーの最後の成功作となる。1868年にパリのリリック座は経営破綻するため、グノーはこのオペラをオペラ・コミック座で上演するために改訂する。その後、オペラ座での上演も決まり、第3稿が編まれるが、これらの改訂は本論には関連しない。

2.2 オペラのウィーン初演

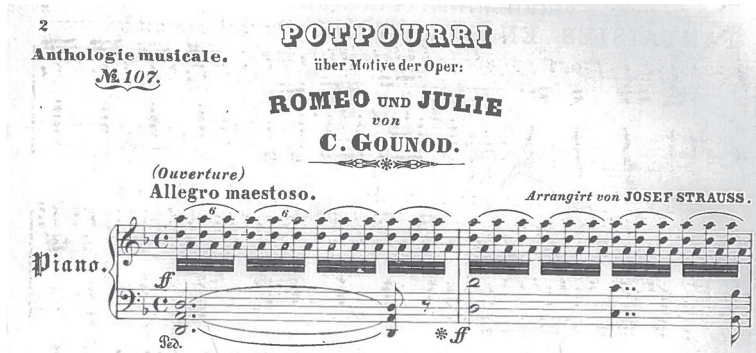
オペラ《ロメオとジュリエット》のウィーン初演は、1868年2月5日である。作曲家自身の指揮により、ケルンテン門脇の宮廷劇場 Theater am Kärntnertorで、ロメオ役にヴァルター Gustav Walter (1834-1910)、ジュリエット役にコロラトゥーラ歌手のムルスカ Ilma de Murska (1834-89)を配して行われた。台本はガスマン Theodor Gassmann (1828-71)の独訳版が使用された¹¹⁾。当時の宮廷劇場の第一級の歌手が出演した。翌日の *Wiener Zeitung* 紙は大成功を伝えており、「各幕の終

わりに作曲者が大喝采を浴びた」とある。ウィーンにおいて同オペラの人気は定着し、1869年に新しい宮廷歌劇場 Hofopertheater が開場した際には、こけら落としの演目としてモーツァルトの《ドン・ジョバンニ *Don Giovanni*》、開場2作目のオペラとして5月30日に《ロメオとジュリエット》がプログラムされた¹²⁾。

3 シュピーナ社刊の『ポプリ選集』

ヨーゼフ・シュトラウスのポプリ〈ロメオとジュリエット〉は、シュピーナ社による『ポプリ選集』の第107巻として出版された。『ポプリ選集』は長い伝統を持つシリーズであり、シュピーナ社ではなく、メケッティ Pietro Mechetti (1777-1850)の創刊であった。ここでC.A.シュピーナ Carl Anton Spina (1827-1906)と『ポプリ選集』の関係を手短かに説明する。彼は父アントン Anton Spina (1790-1857)が働くディアベリ Anton Diabelli (1781-1858)の出版社に入り、父とディアベリの引退後の1851年にC.A.シュピーナ社を立ち上げる。さらに1855年、メケッティの未亡人からメケッティの事業も引き継ぐことになる。『ポプリ選集』は、〈ドニゼッティのアンナ・ボレーナに基づく幻想曲〉を第1巻として1839年頃にメケッティが創始したシリーズで、ピアノ演奏用楽譜として20年以上も市場に提供された続けた。ヨーゼフによるポプリの冒頭部分を図版1に示す。

楽譜の右上に“Arrangirt von JOSEF STRAUSS (ヨーゼフ・シュトラウスによるアレンジ) ”、左上に『ポプリ選集 No.107』の記載がある。出版年は記されていない。この作品の成立がグノーによるオペラのウィーン初演よりも前か後かを知ることは、同作品の背景を探るた



図版1：J. シュトラウスの〈ロメオとジュリエット〉

めにきわめて重要である。そこで手がかりとして、ライプツィヒの楽譜商ホフマイスター Hofmeisterが編んだ楽譜販売目録*Musikalisch-literarischer Monatsbericht*’ (HOFMEISTER 1867) を調査した。同目録は月刊で、ホフマイスターが新たに取り扱う楽譜を編成別に列記している。

ヨーゼフによる第107巻は、1867年11月の目録に、『ポプリ選集』の第103巻 (Ricchi: *Crispino e la Cormare*, 伊語オペラ)、第104巻 (Offenbach: *La Grande Duchesse de Gerolstein*, 仏語オペレッタ)、第106巻 (Verdi: *Don Carlos*, 仏語オペラ) と共に記載されている。第103～107巻の楽曲を表1に示す。第

104巻はすでに1867年8月の目録にも記載があるため、11月は2度目の掲載となる。第105巻〈アストルガ〉は本稿の最初に示した楽譜、つまりは筆者がみつけたもうひとつの楽譜を指すが、これについてはホフマイスターの目録に記載がみあたらない。しかし、この5曲のポプリは近い時期に編纂されたと考えることができる。

ホフマイスターの目録には、ヨーロッパ各地の出版譜が掲載されているが、実際の出版よりも数ヶ月遅れてホフマイスターの目録に登録されるのが常である。1867年11月に登録があるということは、第103～107巻は1867年にすでに出版されていた楽譜と断定できる。

表1：『ポプリ選集』第103-107巻の原曲とその初演

| 巻数 | 作曲者：題名 | 原曲のオペラ／オペレッタ | | | | | | | |
|-----|-------------------------|--------------|---|----|------------------------|------|---|----|------------------|
| | | 初演 | | | ウィーン初演 | | | | |
| | | 年 | 月 | 日 | 場所 | 年 | 月 | 日 | 場所 |
| 103 | リッチ： クリスピーノと代母 | 1850 | 2 | 28 | テアトロ・サン・ベネデット (ヴェネツィア) | 1867 | 5 | 10 | ケルンテン門脇の 宮廷劇場 |
| 104 | オッフェンバック： ジェロルスタン女大公 | 1867 | 4 | 27 | ヴァリエテ座 (パリ) | 1867 | 5 | 13 | アン・デア・ウィーン劇場 |
| 105 | アーベルト： アストルガ | 1866 | 5 | 27 | 宮廷劇場 (シュトゥットガルト) | 1870 | 6 | 24 | カール劇場 |
| 106 | ヴェルディ：ドン・カルロス | 1867 | 3 | 11 | オペラ座 (パリ) | 1932 | 5 | 10 | 宮廷歌劇場 |
| 107 | グノー： ロメオとジュリエット | 1867 | 4 | 12 | リリック座 (パリ) | 1868 | 2 | 5 | ケルンテン門脇の 宮廷劇場 |

注) ウィーン初演の典拠はBAUER 1955、第106巻の作品のみはLOEWENBERG 1978

ここで明らかなのは、ヨーゼフによるポプリ〈ロメオとジュリエット〉がオペラのウィーン初演よりも前に出版されていた事実である¹³⁾。

さらに注目をひくのが、第103～107巻のうちの3曲が、1867年春にパリの主要劇場で初演されている点である。前述したように、パリでは同年4月1日から11月3日までの217日間、万国博覧会が開催されていた。それにあわせて諸劇場で上演された劇作品がその年のうちにポプリとしてウィーンで発売されていたことになる。

4 パリ万博とシュトラウス家

1866年1月28日、ウィーン王宮のレドゥーデンザールで工業協会による舞踏会が開催された。この舞踏会のパトロンは、パリ駐在のオーストリア大使メッテルニヒ侯爵の夫人パウリーネ Pauline von Metternich (1836-1921)であった。彼女はパリで影響力を示すことができる人物で、シュトラウス兄弟は翌年の万博期間中にパリで演奏を行うために、3曲の舞曲を彼女に献上した。ヨハン2世 Johann Strauss (1825-99) のワルツ〈ウィーンのボンボン Wiener Bonbons〉op.307、ヨーゼフのワルツ〈ドイツへの挨拶 Deutsche Grüsse〉op.191ならびにポルカ・マズルカ〈パウリーネ Pauline〉op.190である。兄弟は、首尾よく侯爵夫人の支援をとりつけることができ、その年の四旬節にパリへと視察に訪れ、演奏会場を物色する。しかしながら、適当な会場をみつめるには至らなかった。結局、兄弟はシュトラウス楽団をパリに連れて行くことを断念し、ヨハン一人がパリに行き、弟ヨーゼフは楽団とともにウィーンに留まる決断を下す。彼らの行動を追ってみよう。

4.1 パリのヨハン・シュトラウス

1866年7月、オーストリアはケーニヒツグレーツの戦いでプロイセンに大敗した。翌67年の舞踏会シーズンにも敗北の影響は影を落としたが、ヨハン2世は2月15日に〈美しく青きドナウ An der schönen blauen Donau〉op.314、2月18日に〈芸術家の生活 Künstlerleben〉op.316を発表し、成功を収める。その一方で、前年から計画していたパリ行きは、会場探しも不調で、経済的なリスクにもさらされていた。苦慮の末、5月になってヨハン2世は、ベルリンのビルゼ Benjamin Bilse (1816-1902) が率いる楽団¹⁴⁾と共同で演奏会を開催することを決意する。5月28日、パリのオーストリア大使館でメッテルニヒ侯爵夫人主催のイベントが開催された。フランス皇帝ナポレオン3世も皇后ウジェニーとともに臨席し、〈美しく青きドナウ〉に賞賛を贈った。翌日、「イタリア座Théâtre Italien」でシュトラウスとビルゼは第1回共同演奏会を開き、その後は万博会場に近しい「セルクル・アンテルナシオン Cercle International」で連日2回の演奏会を開催した。ヨハン・シュトラウスはパリで大センセーションを巻き起こし、懸念されていた経済的な窮状も払拭した。ヨハンの妻イエツティ Jetty Treffz (1818-78) は、「朝の演奏会で1000フラン、晩の演奏会で2000フランのギャランティーを得た」(MAILER 1986:53) と手紙に認めている¹⁵⁾。

パリのヨハン2世は、英国皇太子で後の国王エドワード7世の賞賛を受け、8月上旬にはパリからロンドンへと渡り、8月15日から10月26日までロイヤル・イタリアン・オペラ Royal Italian Opera (現在のコヴェント・ガーデン) でプロムナード・コンサートを開き、成功と国際的な名声を獲得してウィーンに戻る。

ロンドンでは、コントラバス奏者ボッテシーニ Giovanni Bottesini (1821-89) とともに演奏会を指揮した。ここでも〈美しく青きドナウ〉は喝采を浴びた。

4.2 ウィーンのヨーゼフ・シュトラウス

1867年の舞踏会シーズンに兄ヨハンは数々の傑作を生み出したが、指揮の仕事からは身をひき、徐々にダンス音楽の作曲も減らし始めていた。ヨーゼフは、作曲・編曲・指揮に大車輪で取り組んでいた。1867年にヨーゼフが発表した新曲は21曲であり、その中にはワルツ〈うわごと Delirien〉op.212などが含まれる。また、5月17日にはフォルクスガルテンで〈リッチのオペラ: クリスピーノと代母に基づくカドリユ〉op.224、6月2日にはノイエ・ヴェルトで〈オッフエンバックの喜歌劇: ジェロルステン女大公に基づくカドリユ〉op.223を初演。これらの原曲は、ポプリ〈ロメオとジュリエット〉と同時期にシュピーナ社が出版したポプリの原曲と共通する。

そこで、兄が不在であった1867年春から夏にかけて、留守番の弟たちがどのような活動を行っていたか調べる目的で、*Neues Flemden Blatt (NFB)* 紙の「イベント広告欄 Vergüngungs Anzeiger」を調査した。同欄には演奏会などの情報が掲載されている。

4.2.1 1867年6月18日の演奏会

1867年6月18日付の紙面に、その日にフォルクスガルテンで開催される「ヨーゼフ&エドゥアルト・シュトラウスによる演奏会」の広告が掲載されている (NFB, p.23)。ここに「新しい作品」として上げられている楽曲を表2に示す。

表2：1867年6月18日の予告曲

| | |
|---|---|
| 1 | グノーのオペラ《ロメオとジュリエット》からの抜粋 a) 結婚行進曲 b) ジュリエットのまどろみ c) 最終の二重奏 |
| 2 | アーベルトのオペラ《アストルガ》からバルカローレと騎士の合唱 |
| 3 | ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ〈戴冠の歌〉 |
| 4 | エドゥアルト・シュトラウス：ポルカ・マズルカ〈心と心を通わせて〉 |
| 5 | エドゥアルト・シュトラウス：ポルカ・シュネル〈縦横に〉 |

6月18日に、グノーのオペラ《ロメオとジュリエット》からの抜粋曲が演奏予定であったことがわかる。〈結婚行進曲 Cortège Neptial〉は第4幕No.18、〈ジュリエットのまどろみ Le Sommeil de Juliette〉は第5幕No.21、最終の二重唱は第5幕No.22の一部である。オペラ後半から曲が選抜されている。この他に、アーベルトの《アストルガ》からの抜粋もみられる。ヨーゼフの〈戴冠の歌 Krönungslieder〉op.226は実際には6月7日、エドゥアルトの〈心と心を通わせて Herz an Herz〉op.27は6月12日にいずれもフォルクスガルテンで初演された¹⁶⁾。この種の広告では、初披露曲だけでなく、初演からあまり時間が経っていない曲も新作と宣伝したようだ。この予告記事で、《ロメオとジュリエット》と《アストルガ》からの抜粋曲には、「ここでは演奏されたことがない」と注釈がわざわざ付けられている。《ロメオとジュリエット》からの抜粋曲は、少なくともフォルクスガルテンでの3回の演奏会で、プログラムに組み入れられている¹⁷⁾。

4.2.2 1867年7月24日の演奏会

次に、1867年7月24日の慈善演奏会の広告を図版2に示す¹⁸⁾。「ヨーゼフ&エドゥアルト・シュトラウス」の下に新作8曲が挙げら

れている。



図版2：1867年7月24日の演奏会広告

(1) グノーのオペラ《ロメオとジュリエット》に基づくポプリ（初演）、(2) ヨーゼフのポルカ・シュネル〈大急ぎで Im Fluge〉op.230（初演）、(3) エドゥアルトのポルカ・フランセーズ〈小さい花 Fleurette〉op.29（初演）、(4) ウェーバーの〈舞踏への勧誘〉（ベルリオーズによる管弦楽版）、(5) ヨーゼフのポルカ・フランセーズ〈ヴィクトリア・ポルカ Viktoria Polka〉op.228¹⁹⁾、(6) ヨーゼフのポルカ・マズルカ〈夜の陰影 Nachtschatten〉op.229²⁰⁾、さらには6月18日にも演奏されたエドゥアルトの(7)〈縦横に〉と(8)〈心と心を通わせて〉。注目すべきは、「新作」と書かれた次に、“Großes Potpourri aus der Oper *Romeo und Julie*” von Ch. Gounod (Neue Folge)”と書かれていることである。これこそ、《ロメオとジュリエット》に基づくポプリである。この曲は、その後に9回の演奏会で演奏予告されている²¹⁾。

シュトラウス楽団の演目に、グノーの《ロメオとジュリエット》に基づくポプリが含まれていたことは、シュピーナ社のポプリ楽譜が単なるピアノ譜として存在するだけでなく、実際にオーケストラで演奏された演目であることを示唆する。

4.3 シュトラウス家とシュピーナ

NFB紙の広告を調査すると、早くも1867年5月26日にシュトラウス楽団がノイエ・ヴェルトのこけら落としとして、ヴェルディのオペラ《ドン・カルロス》の抜粋を演奏していることが判明した。ヴェルディの《ドン・カルロス》はパリ万博にあわせてパリ・オペラ座で初演された伝説オペラであるが、ウィーンではナポレオンを扱った題材を理由に、1930年代まで検閲を通らなかった。それを抜粋の形ながら、1867年のうちにシュトラウス楽団が演奏していた事実はきわめて興味深い。

上記の観察の結果、パリ万博にあわせてパリで上演された音楽劇は、すべてが初演から比較的すぐに、ウィーンのシュトラウス楽団によって演奏されていたことがわかる。しかも、それらのポプリは、ウィーンのシュピーナ社が1867年の夏頃までに楽譜として出版した事実もある。ヨハン・シュトラウス2世は、この年のパリで大成功を収め、世界的な名声を獲得した。当時のシュトラウス家は、シュピーナ社と契約を結んでいた。シュピーナは単に楽譜出版を行うだけの関係ではなく、作曲家のエージェントを兼ねていた。それを裏付けるように、ヨハン・シュトラウスは、パリ行きを企てていた時機に、パリの支援者ドスモン伯爵Charkes Xavier Eustache d'Osmond (1829-83)との交渉を、シュピーナに委任している。1867年2月23日に行われた「伯爵とシュピーナの面会」について、伯爵の秘書であるロアゾン Loison氏が証言を残している(MAILER 1986: 38)。すなわち、シュトラウス家とシュピーナは緊密な関係にあり、両者はパリでの出来事や上演楽譜を迅速に共有できる間柄にあった。シュピーナ社が出版した『ポプリ選集』の原曲を含め、多くの楽曲（な

らびに楽譜）にも、ウィーンのヨーゼフはすぐにアクセスできる立場にあったと推測できる。

5 ポプリ〈ロメオとジュリエット〉の楽曲構造

それでは、ヨーゼフ・シュトラウスによるポプリ〈ロメオとジュリエット〉に目を戻してみよう。ポプリの構造と原曲オペラとの関連を表3に示す。表の左側にポプリの構造を、右側に原曲オペラの対応箇所を示した。

ポプリは508小節から構成されており、7つの部分（Ⅰ～Ⅶ）に区分することができる。使用されているオペラのナンバーは6曲であり、それらが並置されている。オペラの順序が崩れているのはⅢの部分のみであり、第2幕のNo.9の二重唱がNo.6よりも先に出てくる。それ以外は、オペラの順序に従っている。モチーフは第1～3幕から引用されており、

第4～5幕からの引用はない。その点は、シュトラウス楽団がフォルクスガルテンで演奏した抜粋曲（第4～5幕からの抜粋）と大きく異なる。

各部分を細かくみていこう。Ⅰの部分は「序曲」を引用しているが、途中が省略され、短縮されている。Ⅱでは、ジュリエットが歌う第1幕No.3のアリエット〈私は夢に行きたい Je veux vivre〉の全体が引用されている。212小節からなるⅡはポプリの42%を占める。調性はオペラのへ長調からト長調に移されている。原曲と調性が異なるのは、この部分だけである。Ⅲは、第2幕No.9の二重唱のうち、3拍子の部分(第91～144小節)を抜粋し、ヨーゼフ自身の作と推測される導入部が付加されている。Ⅳは、第2幕冒頭の器楽部分の引用で、Ⅴへの移行部の役割を果たしている。Ⅴは、第2幕No.12のステファノが歌う「シャンソン」からの引用。冒頭のレチタティーヴォ

表3：ポプリの構造とオペラとの関連

| ポプリ（ヨーゼフ・シュトラウス）の構造 | | | | | | オペラ（グノー）の対応箇所 | | | | |
|---------------------|---------|-----|-----|---|---------------------|--|---------|-----|---|---------------------------|
| 区分 | 小節番号 | 小節数 | 拍子 | 調 | テンポ | オペラのナンバー | 小節番号 | 拍子 | 調 | テンポ |
| Ⅰ | 001-032 | 32 | 4/4 | d | Allegro maestoso | Ouverture-Prologue | 001-032 | 4/4 | d | Allgero maestoso |
| | 033-054 | 22 | 4/4 | D | Andante | Ouverture-Prologue | 105-156 | 4/4 | D | (Andante) |
| Ⅱ | 055-266 | 212 | 3/4 | G | Allegretto | Act1: No.3 Ariette: Je veux vivre (Juliette) | 001-212 | 3/4 | F | Tempo di Valse animato |
| Ⅲ | 267-280 | 14 | 3/4 | D | Allegretto | *** | *** | * | * | *** |
| | 281-333 | 53 | 3/4 | A | (Allegretto) | Act2: No.9 Duo: Ah! ne fuis pas (Romeo, Juliette) | 091-144 | 3/4 | A | Allegretto |
| Ⅳ | 334-369 | 36 | 6/8 | F | Andante | Act2: No.6 Entre'act: 器楽演奏部分 | 001-035 | 6/8 | F | Andante |
| Ⅴ | 370-450 | 81 | 3/4 | F | Allegretto | Act2: No.12 Chanson: Que faistu (Stephano) | 019-099 | 3/4 | F | Allegretto |
| Ⅵ | 451-456 | 6 | 4/4 | F | Allegro | *** | *** | * | * | *** |
| | 457-483 | 27 | 4/4 | a | (Allegro) | Act3: No.13 Final: Capulets! Capulets! (Ensemble) | 188-214 | 4/4 | a | (Allegro) |
| | 484-495 | 12 | 4/4 | a | (Allegro) | Act3: No.13 Final: 器楽演奏部分 | 275-286 | 4/4 | a | (Allegro) |
| Ⅶ | 496-508 | 13 | 4/4 | a | (Allegro) | *** | *** | * | * | *** |

注) オペラの小節番号はナンバーごとのカウント; インチビット=対応箇所の出だしの言葉;
***=「対応部分なし」を示す

が割愛され、3拍子に拍子転換する第19小節から曲の最後までが引用されている²²⁾。Ⅵは、第2幕No.13最終場面からの引用であり、登場人物全員によるアンサンブル部分（第188～214小節）だけを使用し、続くレチタティーヴォをすべて排除し、No.13の中間に出現する器楽部分をこの部分の終結として用いている。Ⅶはヨーゼフ作曲のコーダである。

実質的に、ヨーゼフによるポプリ〈ロメオとジュリエット〉は、オペラの中で印象的な数曲だけから構成されている。ジュリエットのリエットはとくに魅力的であるし、ステファノのシャンソンも耳に心地よいメロディーが奏でられる。オペラを特徴づけるロメオとジュリエットによる4曲の二重唱からも1曲が選ばれ、最後に第3幕のフィナーレと器楽をうまく配置している。ポプリ全体では3拍子の部分が70%を超える。3拍子のリズムに乗せて、ヨーゼフはオペラを上手くアレンジしたのである。

しかし、「アレンジであるから現代の作品表に楽曲が登録されないのだ」と結論づけることはできない。父ヨハン・シュトラウス1世 Johann Strauss (1804-49) の作品には多くのポプリが含まれ、独自の作品にカウントされている。ポプリとオリジナリティの関係論を論じることは本論の主旨からは外れるので、ここではこれ以上は掘り下げない（詳細は鍵山

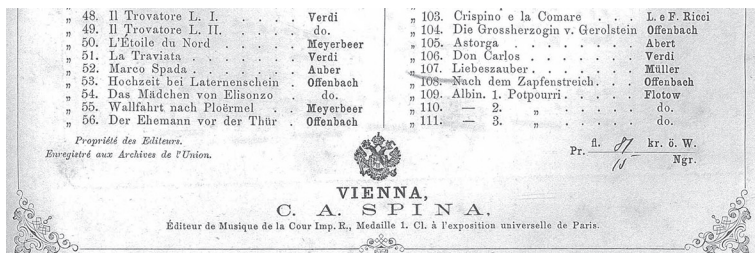
[若宮] 2008を参照)。本論で扱ったポプリがヨーゼフの作品表に含まれていないのは、楽譜の存在が知られていなかったからだ、筆者は考えている。

6 消された作品

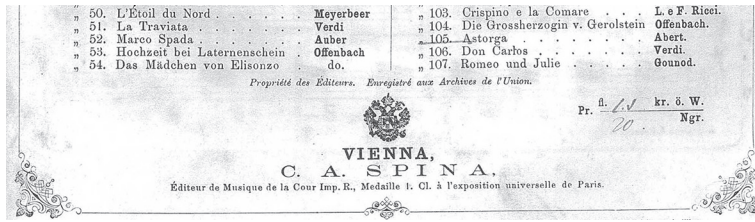
オーストリア国立図書館で筆者が閲覧した『ポプリ選集』は、複数曲を合本した体裁であった（全ての巻が揃っている訳ではない）。これを精査すると、奇妙なことに気づく。第107巻として、もうひとつ別の曲、ミュラー Adopf Müller (1839-1901) の〈愛の魔法 Die Liebeszauber〉に基づくポプリが存在することだ²³⁾。この楽譜の表紙下部を図版3に示す。

『ポプリ選集』の各巻の表紙には、第1巻からそれまでに出版された全作品が列記されている。〈ロメオとジュリエット〉が出版された時には、No.107の欄に“Romeo und Julie. Gounod”と明記されていた。“Romeo und Julie”の記載のある楽譜表紙を図版4に示す。

図版3では、“Romeo und Julie. Gounod”の代わりに、No.107の欄に“Liebeszauber. Müller”と記されている。〈愛の魔法〉はウィーンで制作され、1868年7月25日にノイエ・ヴェルトで初演された。ミュラーは劇場付の作曲家で、主としてオペレッタや歌芝居などの軽喜歌劇を書いた。彼が劇制作に長い時間をかけたとは考えられない。また、ホフマイスター



図版3：No.107に“Liebeszauber”と記された楽譜



図版4：No.107に“Romeo und Julie”と記された楽譜

は1869年5月の販売目録に同楽譜を掲載している (HOFMEISTER 1869: 85)。目録では、同じ項目に第112～114巻も記載されている。第107巻と第112巻では巻数に隔たりがあることから、第107巻の曲が後になって差し替えられたと類推される。しかも、〈ロメオとジュリエット〉と〈愛の魔法〉のプレート番号は、同じC.S.19313である。同じプレートを使い回すことは散見されるが、違う曲に同じプレート番号を付与することは、本来、あり得ないことである。そして、〈愛の魔法〉以後に出版された『ポプリ選集』の楽譜表紙には、第107巻としてミュラーの作品が掲載され続けている。ヨーゼフによる〈ロメオとジュリエット〉が消された理由はわからない。しかし、何らかの理由があったと考えるのが妥当である。

7 結論

2014年3月、ウィーン・シュトラウス研究所が主催したウィーン大学でのシンポジウムで、ケンプ Peter Kempはヨーゼフ・シュトラウスの〈日本行進曲 Japanesischer Marsch〉に関する発表を行った。この曲はロシアでのみ出版され、ウィーンでは出版されなかった²⁵⁾。ケンプは長年にわたり同楽譜を探して世界中を調査したが、発見には至らなかったという。しかし、2012年にオーストリア国立図書館の

「総合カタログ Hauptkatalog der Österreichischen Nationalbibliothek」に忽然と蔵書記録が現われた。新規購入された訳ではなく、ハイドン研究で有名なホーボーケン Anthony van Hoboken (1887-1983) の遺品整理が進み、成果が反映されたいというのだ。本稿で論じたヨーゼフのポプリも、同じような背景を持つ可能性がある。

『ポプリ選集』は1830年代から脈々と出版が続けられた。第1～42巻まではホテク Franz Xaver Chotek (1800-52) が、第43～59巻までは別の作曲家たちが編曲者として楽譜上に名前が示されており、編曲者の作品としての作品番号も付与された²⁶⁾。しかし、第60巻以降の大半には編曲者名が示されていない²⁷⁾。そうした状況下で、第103巻と第107巻には何故ヨーゼフ・シュトラウスの名前が記されたのか。おそらくシュピーナ社に名前を記す理由があったのであろう。他方で、この曲にはヨーゼフの作品としての作品番号は与えられていない。単なる販売目的である可能性はあろう。また、シュピーナとシュトラウス家の親密な友好関係の反映とみることもできる。確かに、ヨハン2世によるパリ万博とロンドンでの大成功は、シュピーナに巨額の利益をもたらした²⁸⁾。しかし、こうした推測は予想の域を脱していない。第107巻の差し替えの件も同様である。事情解明には、さらな

る調査と新しい証拠の発見が不可欠である²⁹⁾。

[注]

- 1) アーベルトはボヘミアに生まれ、1853年にシュトゥットガルト宮廷楽団に入り、1867～88年に楽師長を務めた。《アストルガ》(台本: Ernst Pasqué, 3幕)は1866年5月27日にシュトゥットガルト宮廷劇場で初演された。物語は、18世紀初頭に活躍したイタリアの作曲家Emanuele d'Astorga (1680-1757)を扱っている。オーストリア国立図書館の所蔵番号はM.S.4572-4°.31 Mus.
- 2) オーストリア国立図書館の所蔵番号はM.S.4572-4°.34 Mus.
- 3) 「作品番号なしに出版された作品」として、“*Das musikalisches Österreich*” (ピアノ譜, 1862), “*Faust-Potpourri*” (1862)、「消失作品」としてに“*Musikalisches Panorama*” (1856), “*Die Hochzeit bei Laternenschein*” (1862), “*Concert-Potpourri*” (1863), “*Strauss und Lanner*” (1864), “*La forza del destino*” (1865), “*Souvenir à la Patti*” (1865), “*Zum Jahreswechsel, Sylvesterlieder*” (1865)を掲載。この目録は、それまでの目録に含まれるポプリを網羅している。
- 4) “*Musikalisches Panorama*” (1856), “*Die Zaubergeige*” (1859), “*Tschin-Tschin*” (1860), “*Das musikalisches Österreich*” (1864), “*Souvenir à la Patti*” (1865)を掲載。いずれも初演日と初演場所が付記。“*Das musikalisches Österreich*”の年代がKEMP 2001とは異なるが、LINHARDT 2006とは同じである。
- 5) 「作品番号のない現存作品」(出版譜/手稿譜は区別せず)として、“*Faust-Potpourri*” (1862?), “*Das musikalisches Oesterreich*” (1864), 「消失作品」として“*Musikalisches Panorama*” (1856), “*Die Zaubergeige*” (1859), “*Tschin-Tschin*” (1860), “*Musikalisches Feuilletton*” (1862), “*Strauss und Lanner*” (1864), “*La forza del destino*” (1865), “*Souvenir à la Patti*” (1865), “*Sylvesterlieder*” (1865)を掲載。
- 6) エドゥアルトは馬車7台分の楽譜を焼却したとされ、貴重な手稿譜を含む楽団所有の楽譜はほとんどが消滅した。
- 7) グノーのオペラ《ファウスト》は、1859年3月19日にパリのリリック座で初演。初演場所ばかりでなく、台本作者も《ロメオとジュリエット》と同じである。初演年から1868年までに300回以上上演された。
- 8) ベッリーニは1830年にヴェネツィアで抒情悲劇“*I Capureti e i Montechi*”を、ヴァッカイは1825年にミラノでオペラ“*Giulietta e Romeo*”を初演している。
- 9) “*Philémon et Baucis*” (1860), “*La colombe*” (1860), “*La reine de Saba*” (1862) .
- 10) LOEWENBERG 1978: 990.
- 11) ガスマンの台本の不備や主役ムルスカの歌唱力を批判する新聞記事も刊行されたが、それでもウィーンでの人気は維持された。
- 12) 宮廷歌劇場の開場は1869年5月25日。《ドン・ジョヴェンニ》の題名は“*Don Juan*”を使用。26日と29日にも《ドン・ジョバンニ》、28日にはパレエ公演が行われた。
- 13) 第105巻〈アストルガ〉の出版年を示す証拠はないが、巻数から推測して、この作品もオペラのウィーン初演前に楽譜が出版されたと考えられる。
- 14) ビルゼの楽団は後にベルリン・フィルハーモニーに発展する。
- 15) 3000フランは現代の通貨換算で約300万円に相当。
- 16) 〈縦横に Kreuz und Quer〉 op.28は「6月21日初演」とシェンヘル目録には記載されている (SCHÖNHERR 1982: 193)。
- 17) 6月18日、6月21日、7月16日。
- 18) 1867年7月24日付の*Neues Fremden Blatt*紙 p.19。
- 19) 1867年6月27日、ホテル・ヴィクトリアで初演。
- 20) 1867年7月5日、フォルクスガルテンで初演。
- 21) 1867年7月30日、8月2日、6日、9日、13日、20日、27日、30日、9月3日。*Neues Fremden Blatt*紙の演奏会広告には、曲目記載のないものも多々存在する。これらのすべての演奏会にヨー

- ゼフが立ち会っていた訳ではない。8月上旬には体調を崩して保養に出かけている。彼が仕事に復帰するのは9月である。
- 22) 経過的な最後の2小節を除く。
- 23) オーストリア国立図書館の所蔵番号はM.S.4572-4°.33 Mus.
- 24) No.103〈アストルガ〉の表紙。M.S.4572-4°.31 Mus.
- 25) 日本の文久遣欧使節団のロシア訪問に遭遇したヨーゼフ・シュトラウスが作曲。St.Petersburg: Büttner社が出版。
- 26) Johann Carl Metzger, Ferdinand Waldmüller, Adolf Müller, Julius Hopp.
- 27) 第74巻にFr. Doppler, 第80巻にC.F. Stenzl, 第92巻にF. Waldmüllerの名前が記載されている。
- 28) 図版3の出版社名“C. A. SPINA”の下には、小さな文字で「パリの万国博覧会でメダルを獲得」と記されている。
- 29) 本稿は、日本ヨハン・シュトラウス協会2014年10月例会（2014年10月19日）での発表「シェークスピアとシュトラウス：新発見!? ヨーゼフのポップ『ロミオとジュリエット』」に一部基づいている。

[参照新聞]

オーストリア国立図書館: “ANNO [AustriaN Newspaper Online] = Historische Österreichische Zeitungen und Zeitschriften (<http://anno.onb.ac.at/>) で閲覧。以下、閲覧新聞 *Neue Freie Press; Neues Fremden Blatt; Wiener Zeitung; Wiener Abendpost; Zellner's Blätter für Theater, Musik und bildende Kunst.*

[参考文献]

- BALLSTAEDT, Andeas
1997 “Potpourri”, in FINSCHER (MGG) 1994-2008, Sachteil Bd.7, pp.1759-1761.
- BAUER, Anton
1955 *Opern und Operetten in Wien*. Graz/Köln:

- Hermann Böhlhaus.
BRUSATTI, O. & SOMMER, I.
2003 *Josef Strauss 1827-1870*. Holzhausen, Wien.
- FINSCHER, Ludwig (ed.)
1994-2008 *Die Musik in Geschichte und Gegenwart (MGG)*. 21 Bände. Kassel: Bärenreiter.
- HOFMEISTER (ed.)
1867-69 *Musikalisch-literarischer Monatsbericht*. Leipzig: Hofmeister. <http://www.hofmeister.rhul.ac.uk/2008/content/database/database.html>で閲覧。
- HUEBNER, Steven
1992 “Roméo et Juliette”, in *The New Grove Dictionary of Opera*. London: Macmillan, vol.4: pp.31-33.
- 井上, さつき
1999 『パリ万博音楽案内』 東京：音楽之友社。
- JAHN, Michael
2001 “Gounod und Wien – Stationen eines Erfolges” in *Gounod: Roméo et Juliette*. Wien: Wiener Staatsoper. pp.22-27.
- 鍵山, 由美 [若宮, 由美]
2008 「1840年代のウィーンにおけるポップリとカドリューの関連:バルフの《ハイモンの息子たち》に関する考察」 in 『お茶の水音楽論集』（お茶の水女子大学）第10号, pp.1-13
- KEMP, Peter
2001 “Strauss”, in SAIDIE 2001, vol.24, pp.474-496.
- LINHARDT, Marion
2006 “Strauß”, in FINSCHER (MGG) 1994-2008, Personenteil Bd.16, pp.11-54.
- LOEWENBERG, Alfred
1978 *Annals of Opera 1897-1940*. Totowa: Rowman and Littlefield.
- MAILER, Franz
1977 *Joseph Strauß. Genie wider Willen*. Wien/München: Jugend und Volk.
1986 *Johann Strauß (Sohn). Leben und Werk in Briefen und Dokumenten*. Bd.2: 1864-1877. Tutzing: Hans Schneider.

ヨーゼフ・シュトラウスの〈ロメオとジュリエット〉

- 1999 *Johann Strauß. Kommentiertes Werkverzeichnis*. Wien: Pichler.
- 2002 *Joseph Strauss: Kommentiertes Werkverzeichnis*. Frankfurt a.M.: Peter Lang.
- PRIKOPA, Herbert
- 2004 *Strauss-Führer durch Europa und die umliegenden Ortschaften*. Wien: Ibero.
- SADIE, Stanley (ed.)
- 2001 *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2nd ed. 29 vols. London: Macmillan. Vol.24, pp.474-496.
- SCHÖNHERR, Max
- 1982 *Lanner, Strauss, Zieler*. Wien, München: Doblinger.
- 若宮, 由美
- 2013a 「博覧会的なピアノ曲集としての“Aus der Musikstadt” (1892)」 in 『埼玉学園大学人間学部紀要』 第13号, pp.167-179.
- 2013b 「ヨーゼフ・シュトラウス考①〈劇場カドリーユ〉から垣間見るウィーン劇場界」 in 『日本ヨハン・シュトラウス協会会報』 第292号, pp.22-24.
- WEINMANN, Alexander
- 1967 *Verzeichnis sämtlicher Werke von Josef Strauß und Eduard Strauss*. Wien: Ludwig Krenn.